



写真・市谷 健「はだして遊ぼ！」

きょうもどこかで

春の小川がきらきら光っている。
そんな感じがしたお話ばかりです。

●若い女性のダスキンさん、いつも「おばあちゃん、お元氣してますか」と笑顔で声をかけてくれます。年を重ねると人恋しく、一人住まいの私には、ほんとうにうれしいのです。掃除をしながらその日がくるのを待っています。

大阪・西野綾子さん

●一人で障子を貼っていました。

高い所に届かず困っていたら、通りがかったダスキンの橋口さんが、車をとめて手伝ってくれました。

鹿児島・古園スエイクさん

●「ダスキンです。あしたは交換日です、お伺いしてもよろしいですか」と電話。もう何年つづいているだろう。今晩は雨風が強い。明日は晴れるといいが。山里のわが家に、月1回の定期便。

愛知・奥村好成さん

●工藤さんがモップと新聞をおいて帰られた。裏の通信欄に「あなたがかくなって散歩できるようになる

といいですね」と書いてありました。膝を痛めたこと話したかしら。

宮城・鈴木淳子さん

●うす暗くなって帰ってきた小3の息子、「遊んでたら、ダスキンのおにさんがユータ君もうウチに帰るな、といったんだよ。どうしてボクの名前知ってるんだろう」。

埼玉・中沢ゆかりさん

ちいさな出来事ですが、お客様
の心にふれたのでしょうか。うれし
いおたよりでした。

株式会社ダスキン会長

伊東英幸

喜びのタネまき新聞

読む人の幸せを心に願って作る

ふるさととの暮らし① 「海辺のクリーン大作戦」

東京とふるさとを往復しながら制作活動が続ける
中野洋一さんの絵とエッセイのシリーズが始まります。
きれいに見える海も、昔と比べたら、
輝きが少なくなっているというのですが…。



幼いころ、ふるさとの海はとて

もきれいでした。それから年月を
重ねた今、一見、美しく見える海
の水も浜の景色も、すこし変わっ
てきたように思えるのです。

私は、週に1〜2回海岸に行っ
ては、ある場所の掃除を続けてい
ます。

テニスコートほどの広さのコンク
リートを敷いたその場所には、土
砂や石ころが台風で運ばれ、その
上に空き缶、ビン、プラスチック類
が散乱し、古びた漁網、ロープ、浮
き、フジツボの殻などがうず高く
積みまれています。

「なぞの空白地帯、現代の貝塚」
と私がひそかに呼んでいる場所で
す。

「掃除は誰がするべきなのだろ
う?」と思って聞くと、自治体の
掃除の行事「ふるさとクリーン大
作戦」はあるものの、その場所に
ついての明確な責任分担はありま
せん。ふるさとの人々の奥ゆかし
い譲り合いも手伝って、ついに答え
はでませんでした。

5年前から、1年の大半をふる
さとの地で暮らすようになった私
にも責任があるわけで、「よし、オ
レがやる!」と意を決し、一人で

クリーン作戦を始めました。

空き缶の片付けを終えてから、
スコップと一輪車を持ち込み、土
砂を取り除くのに2、3カ月かか
りました。網やロープ類はナタで
カットして袋に詰めます。

最近、山積みされた「現代の
貝塚」をボチボチ分別ゴミに出し
ています。

日が暮れて作業を終え、空の一
輪車を引きながら、家路に着く
ときの爽快感はたまりません。今
では、空き缶等、だれも捨てなく
なりました。

絵と文 版画家 中野洋一

版画家。陶彫家。鹿兒島県生まれ。故郷の風物等をテーマに木版画や
陶彫を制作。1995年には朝日新聞日曜版のカットを連載。オランダ
国際版画ビエンナーレ展入選など国際的にも活躍。



はやく一緒に遊びたいね。
東京都小平市 石田陽子



ムーンウォーク
やってるのだけ
神奈川県相模原市 石川光弘



満員です!
静岡県浜松市 菅沼百恵

家族や友だちにしか撮れないステキな笑顔、みんなに見てもらいたいわたし好みの1枚。もちろんかわいいペットも撮れたら送ってください。お待ちしております!
(詳細は7ページ)

見てうれし、見せてうれし、この写真。わたしの出番の1枚を送ってください。

みてもらおう!



おやつ時間 簡単、美味しい楽ラクレシピ



お料理研究家 こいけりえ



ティラミスの材料として一躍有名になったマスカルポーネチーズを使います。生クリームと混ぜ合わせ、イチゴソースを上からかけた冷たいデザート。真っ白なクリームの上に真っ赤なソースは見た目も華やかで、おもてなしにも最適。さっぱりした酸味とやさしい甘さで春を感じてください。

「イチゴのフロマージュジュククリーム」

◎作り方(4人分)

●フロマージュクリーム

フロマージュとはフランス語でチーズのことですが今回は「マルカルポーネ」を使います。ポウルにマスカルポーネチーズ100g(最近は手軽に手に入りますが、なければ室温に戻したクリームチーズ)を入れて、すり混ぜるようにしてクリーム状にし、レモン汁、オレンジリキュール各大さじ1を入れて混ぜ合わせる。



●イチゴソース

イチゴ(大3個もしくは中5個くらい)は細かく切って、オレンジジュース50mlとグラニュー糖大さじ1を加えてミキサーにかける。ミキサーがない場合は、マッシャーなどで潰してソースにする。イチゴソースも冷蔵庫で冷やしておく。



◎盛り付け

冷えたクリームの上にイチゴソースを流しかけて、上にカットしたイチゴやオレンジをトッピングする。あればミントの葉をのせると彩りが良くなります。



もう一つ別のポウルに卵白(大きめの卵)一個分を入れ、グラニュー糖30gを2〜3回に分けて加え、泡立ててメレンゲを作る。角が立つように、しっかりと硬めに泡立てるのがポイント。クリーム状のマスカルポーネチーズに生クリーム、メレンゲの順に加え、なめらかなになるように混ぜ合わせる。混ぜ過ぎるとベタンとしぼんでしまうので気をつけること。ガラス4個に混ぜ合わせたクリームを等分に入れて、冷蔵庫で2時間くらい冷やす。



動物園で

みつけた



象と人間の共存をめざす そこから紙が生まれた

「市原ぞうの国」にいる象たちは、タイやインドなどアジア象が多く、アフリカ象は1頭。調教師はタイから招き、ぞうさんシヨールも見せてくれる。

そこに置いてあるステーションナリーに注目。ふんから作った紙は色も手ざわりもナチュラル。長時間ボイル殺菌するので衛生上も問題なく、古紙と混ぜたりサイクルというの、ちよつとぶつ飛んだエコ。

この紙は、迷子になった子象などを保護するスリランカの「象の孤児院」から生まれた。製造の研究・開発をしたのは日本人。「たまたま出会いがあつて…」という植田紘栄志(うへだひさし)さんに聞いた。

スリランカではジャングルの環境破壊から象が町中まで迷い込み、パニックになって人や人間に危害を与え、時には撃たれることもあつた。そんな象を保護する公的な施設が「象の孤児院」。

千葉県にある

「市原ぞうの国」は
象に乗れる
動物園として有名。



ハート型の箱入り。手ざわりのいいメッセージカード。

ぞうさん ペーパー

今回は「ぞう」でみつけた「ぞうさんペーパー」のお話です。象のふんをリサイクルしてスリランカで作られた紙。全国で約40の動物園や水族館、植物園などに置かれています。



メモ帳は使っていくうちに色あいが変わるのが楽しい。ピンクのぞうさんは封筒。



便箋と封筒。鉛筆はシナモンの木や紅茶の木の間伐材。香りがするのがうれしい。



この施設のある田舎町で、隣にある紙の製造工場のスタッフは、毎日ふんを集めてまわる。ふんはドラム缶で24時間ゆで、牧草のようになった繊維に古紙を混ぜ、紙すきの和紙と同じ要領で一枚ずついいねいに漉く。今では始めた時の7人が120人。1日A4サイズの紙が7万2千枚生産できる。

町の人は象や自然の保護のため植林をするようになり、象の成育環境が良くなった。現地の人には雇用が生まれ、日本ばかりでなく世界中の動物園に紙を輸出、楽しそうに働いている。「これは、象と人との共同作業なんです」と植田さん。

僕らの冒険が世界を変える 象がいないとできない物を作りたい

「僕らの冒険が世界を変える」これは植田さんの考え方になっているようだ。冒険といつても、他人のやらないことをしっかりと粘り強くやること。02年に成功した「ぞうさんペーパー」、実は日本に輸入する段階になって、大きな壁にぶつかった。絶滅するおそれのある動物を守るための国際的取り決め・ワシントン条約で、象に関する物は全て輸入禁止。「でも、象を守るための紙なのに?」

約1年間、省庁に通って説得交渉。やがてスリランカ政府と日本政府、条約の本部のジュネーブから特例措置で許可され、さらに06年の社会貢献事業の世界コンテストでグランプリも受賞。「嬉しかったです」

最近のココナツミルクを取ったあとのヤシの実をほぐし、そこにぞうさんの繊維をまぜた緑化マットを開発。無料の芝マットを休耕田等に置いて栽培してもらい回収する。農家と共存共栄を図るエコシステムだ。このマットで屋上緑化、冷暖房の効率化を考えるなど、象さんと一緒に怒濤の行進が、まだまだ続きそうなのである。



屋上緑化自動車。「これまで幼稚園やアニメの会社が使ってくれたんですよ」断熱効果があり、ベランダや屋上に敷けばエコ。



子どもが遊んでいる時にも安心なように、天然素材の色だけのパステル。箱はぞうさんペーパーだ。



ほ



ほ



え



み



の



ひ



ろ



ば



母

長野県木祖村 川上美枝子

季節はずれのブドウをいただき、実家の母を思いました。母は50年ブドウ作り一筋。我慢強い人で、腰が曲がり、手の指が不自由になっても、80歳までただ黙々と働き続けました。私も長男の家に嫁ぎ、畑仕事や子育てと母と同じ道。たまにはゆっくりさせてあげたいと思っても、なかなか出来ず、私はいつも悩みばかりをお土産に、実家へ里帰りします。すると母は「我慢しろよ。いつかいいことがあるぞなあ」「母ちゃんは我慢ばかりだったけど、いいことあったかい？」と聞くと「そうさなあ、人様の世話にならずにこれたで、それが良かったことかなあ」と欲のない答え。「そうだね」とうなずき、2人で笑いました。年を重ねて、母の言葉の意味がわかる気がします。母は米寿をこえ、私は3人の子供を育てて、今年はず末の子も成人しました。まあまあでしょうかね。

——お母さんありがとう。



木の葉

広島県尾道市 浮田洋子

一昨年の夏、手術をしなければ危ないという私の病気を心配して、田舎の父と母、兄夫婦が車で駆けつけて、手術前の説明や検査に付き添ってくれました。病院から帰り、皆でお昼を食べて話していると、いつの間にか夕方。

兄夫婦が田舎に帰るので、見送りのため庭に出ました。ウチの庭には1m位の木があり、しっかりとした楕円形の葉が繁っています。兄がその木を指さし「この木の葉は手紙にもなるんだよ」「変なこと言うね。何？それ…」

兄が一枚の葉の裏をくるりと裏返ししました。『ファイト！負けるな！』『元気を出すこと』とあったのは兄の字。いつの間にか書いたのか。涙が止まらなくなりました。お兄ちゃん、ありがとう。いつも甘えてばかりですね。

——お母さんありがとう。



双子バンザイ

青森県八戸市 大下紀子

平成20年1月、我が家に双子の女兒が誕生し、孫が急に3人になりました。私の母の弟妹、私の妹も双子を授かりました。家系なのでしようか、神様の思し召しと思っています。この女兒たちが誕生してからは、かわいいやら大変やらで、千手観音様くらいの手が欲しいと思いました。大人達の苦勞は物ともせず、2人はスクスクと育ち、満1歳になりました。10ヶ月くらいで早くもヨチヨチと歩き出し、元氣一杯です。双子たちのお陰で家族の絆は強くなり、お嫁さんとの仲もグリーンと近くなり、一石二鳥。日毎に成長する孫たちと同じ空の下で生きていける幸せに感謝です。

——しあわせも2倍です。



忘れもの

大阪府狭山市 朝倉ミヨ子

あんなに探していた鍵が、久しぶりに着た服のポケットから出てきて、一瞬私の頭の中は真っ白になってしまった。

夫は「絶対に定位置に戻した」と言う。それから必死で探したが何処にもなかった。息子から預かった大切な鍵だけに、気が重く、心が安まる事がなかった。それがとんでもないところから出てきたのだ。夫に伝えると、「それはよかった！」と大喜びする姿から、自分の責任を強く感じていたのだと思い、申し訳なさで一杯になった。

ホツとしたものの、生意気になってきた孫に笑われそうで落胆していたら、夫が「誰のせいかわからないが、違う場所から出てきた」と言うことにしようと思いついてくれた。

日頃は口うるさい夫が私を責めもせず、かばってくれようとしている事がとても嬉しかった。老いてもかばい合い、支え合っていくことで、これからもよろしく願っています。

——ミヨ子ちゃんありがとう。

親切を受けたら
 親切を、あたりまえだ、と
 むさぼつてはならない。
 出来るだけ小さく受けて、
 深く味わう事だ。
 そのかわりに、こちらからは、大きく、
 出来るだけの親切をつくす気になる事だ。
 相手が、多少迷惑であっても、
 自分のために、させて下さいませんか、と
 おたのみをして親切をつくすことだ。

鈴木清一

「紅い花がだいすきな♪」



大分県津久見市 竹本勢津子

●投稿には、名前、年齢、職業、住所、電話番号、
 現在ご利用のダスキンの店名をお忘れなく。
 紙面やホームページでご紹介させていただいた原
 稿や写真にはお礼をさせていただきます。

●送り先
 〒163-0223 東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
 新宿支店新宿住友ビル内分室 私書箱 第47号
 ダスキン「喜びのタネまき新聞」編集室
 電話 03(5909)6703
 e-mail: koho4@mail.duskin.co.jp

無料 おそうじ相談 実施中!
 ダスキンコールセンター
 平日の9:00~17:00
 0120-100-100

- 2ページの中野洋一さんのアトリエ
 〒896-1301 鹿児島県薩摩川内市鹿島町蘭牟田2131-203
 電話: 09969-4-2763
- 4-5ページの連絡先
 - ・市原ぞうの国
 〒290-0521 千葉県市原市山小川937 電話: 0436-88-3001
 - ・ぞうさんペーパー/ミチコーポレーション
 〒202-0021 東京都西東京市東伏見2-6-22 電話: 042-450-2444
 ホームページ: <http://www.michi-corp.com/>

あなたのお便りや
 写真をお寄せください



息子の結婚

神奈川県大和市 嶋之浦トシ子

息子の結婚を半ば諦めかけていた時、「結婚
 したい」と突然の言葉に、嬉しさのあまり泣い
 てしまいました。彼女の第一印象は、28歳で亡
 くなった娘の面影に、どこか似ている気がしま
 した。これからは彼女を本当の娘と思い、仲良
 くしていこうと思いました。

姉が「姑のほうが、より心遣いをする難しい
 立場よ」と先輩として助言してくれたので、こ
 の意味をよく理解して、つかず離れず、ふたり
 を見守っていきます。

長い間、息子と共に暮らしてきたので、「子
 離れ、子離れ」と自分に言い聞かせ、今後は彼
 女にお願いして、私たちは静かに老後を送り
 たいと思っています。

——よかったです、よかったです。



誕生日に

新潟県胎内市 伊藤千恵子

母が病院で89歳の誕生日を迎えた日。看護
 師さんたちが、忙しい時間をさいてベッドを囲
 み、ハッピーバースデーの歌をプレゼントしてく
 れました。一緒に手拍子する、満面の笑みの
 母に、胸が熱くなりました。

そしてもう一つ。嫁いだ娘から千羽鶴が届き
 ました。娘は、小1、年少、5ヶ月の子育て真っ
 最中。時間のゆとりなどあるはずもなく、きつ
 と寝る時間をさき、一羽一羽折ってくれたので
 しょう。頭の下がる思いです。メールをみると、
 『家族と近所の子どもたちも手伝ってくれたよ。
 出来の悪い鶴は私です。遠目で見てね』とさり
 気ない返事がありました。私も母もみんなに支
 えられているんだなど、感謝でいっぱいでした。

——明るい日になりましたね。



～愛情つまった洋服に～

退職後、お孫さんに洋服や帽子を手作りして
 いる私の元上司。と言っても、ご主人の着られ
 なくなったコートからケープ。お子さんが小さい
 頃の服にアップリケを付けてリフォームするな
 ど、洋服を可愛らしく変身させています。そん
 な風に生まれ変わった洋服を見て、私も家に
 あった布の切れ端やボタンなどを「もしよろし
 ければ…」とお届けすると、大変喜んでくださ
 り恐縮してしまうほどでした。たくさん
 の愛情がこもった洋服達はとても
 素敵で、うらやましいばかりです。



(愛知県豊川市 石黒道子)



陶器やガラスの食器の使用で
どれくらい紙の使用量を
減らせるでしょうか？



年間約 トン

正解者の中から30名様に
「キッチンきれいセット」を
プレゼント!



下記の要領でご応募ください。

- ◆官製ハガキに
 - ①クイズの答え②郵便番号③住所④氏名⑤年齢⑥性別
 - ⑦電話番号⑧現在ご利用のダスキンの店名をご記入の上、下記あて先までお送りください。
 - ◆締め切り 平成22年5月14日(金)当日消印有効
 - ◆ダスキン関係者の応募はご遠慮ください。
 - ◆当選者の発表は、プレゼントの発送をもってかえさせていただきます。(平成22年6月中旬お届け予定)
 - ◆あて先 〒163-0223
東京都新宿区西新宿2丁目6番1号
新宿住友ビル23階(私書箱47号)
(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係
 - ◆応募に関してのお問い合わせ TEL:03-5909-6703
- ※抽選結果に関するお問い合わせはお受けできません。予めご了承ください。

今回ご応募いただいた個人情報については、(株)ダスキンの範囲内でのみ利用させていただきます。プレゼントの抽選・発送の目的以外には使用いたしません。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、(株)ダスキン「喜びのタネまき新聞」クイズプレゼント係 TEL:03-5909-6703 までご連絡ください。

ミスタードーナツは
なぜ陶器の食器を
使っているの？



紙コップなどを使い捨てるのが、もったいないからよ。

ミスタードーナツは、創業初期の1974年から、陶器やガラスの食器を使っています。紙製と比べて、紙の使用量を年間約700トンも削減できます。

詳しくはwebで

ダスキンのエコ

検索



●この新聞をお届けしているのは

株式会社 **ダスキン**

発行：広報・広告部 〒564-0051 大阪府吹田市豊津町1-33

編集：「喜びのタネまき新聞」編集室

〒163-0223

東京都新宿区西新宿2丁目6番1号 新宿住友ビル23階(私書箱47号)

TEL:03-5909-6703 FAX:03-5909-6771

【お客さまの個人情報のお取り扱いについて】

お客さまの個人情報は商品のお届けや回収、サービスの提供に利用させていただきます。また、後日商品やサービスのご案内をさせていただく場合があります。なお、お預かりした個人情報はダスキングループ企業と加盟店の範囲内で利用させていただきます。配送業務等で個人情報を外部企業に委託する場合は、弊社の厳正な管理の下で実施します。個人情報に関するお問い合わせや、ご自身の個人情報の開示・訂正・利用停止については、下記ダスキンコールセンターまでご連絡ください。

■ダスキンコールセンター

0120-100100 www.duskin.jp